

2024年度（令和6年度）学校評価自己評価表

福山市立精華中学校区	校番 15	福山市立精華中学校
最終更新日		2024年（令和6年）4月 日

I 福山市	<div>ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。</div> <div>ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。</div>
-------	---

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】【主体的に学ぶ力】【自己形成力】
・児童生徒は、人のため・学校のため・地域のためにできることはないかと考え活動を工夫している。	・興味をもったことを探究したり、思いを実現させようと主体的に行動したりする姿が増えている。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	・確かな学力を身につけ、自ら進路を切り拓く子ども ・自己肯定感が高く、社会に貢献できる子ども
・小中9年の縦のつながりやかかわりを大切にしたい取組を継続していく。	・自分の考えを持ち、積極的に話したり書いたりするなど、自己表現力の育成に引く続き取り組む。	中学校区として統一した取組等	・「主体的な学び」の授業づくりに取組み、学力の向上を図る。 ・「自己表現」「あいさつ」に取組み、自己肯定感の向上を図る。 ・「自分で選び・決める活動」に取組み、自己形成力の向上を図る。
・子どもたちが主体性を発揮できるように教職員はPDCAサイクルの視点をもってマネジメントしてほしい。	・人間関係の固定化やレジリエンスにややかけるところもある。		

III 自 校

ミッション		育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	主体的に学ぶ力	思考力・判断力・表現力	自己形成力	
地域に愛着と誇りを持ち、生徒一人一人が主体的に学び、精華中で学んでよかったと誇れる学校		めざす子ども像	1年	日常生活や地域社会をよりよくするために、様々な情報の中から必要な情報を活かし、解決している。	日常生活や地域社会をよりよくするために、自分の考えや意見を話したり書いたりしている。	生活や社会をよりよくするため、相手の立場も思いやりながら目標を決めて、最後までやり遂げようとする。
学校教育目標			2・3年	生活や社会をよりよくするため、様々な情報を多面的・多角的な見方で分析し、課題を適切な方法で解決している。	生活や社会をよりよくするための課題を見つけ、既習事項を活用して、自分の考えや意見を話す・書く等で表現している。	誰に対しても思いやりの心を持ち、より高い目標を達成するために、相手の立場や考えを尊重しながら、粘り強く取り組み、やり抜いている。
夢と志を持ち、社会に貢献できる生徒の育成		現 状	研究	教科等	国語、社会、数学、理科、音楽、家庭、英語	
＜児童生徒＞				主題・内容等	自ら進んで考え、協働的に学びを深めながら、課題解決する授業の創造	
・素直であり、校内や地域でのボランティア活動に積極的に参加している。					・生徒が「わかる」「できる」を実感できるための教材研究と授業実践	
・体育大会や文化祭等での行事では、生徒が主体的に活動できる。					・単元の中で、生徒自らが課題発見・解決できる過程のある授業を展開（考えてみたい、考えざるを得ない問いの工夫）	
・人間関係が固定化し、人間関係の広がりや、新たな関係の構築が難しい。		めざす授業の姿		・個人思考の時間を確保（個人思考→話し合い活動→表現活動→個の振り返り）		
＜授業＞				課題に対して、自ら進んで考え、仲間とともに、自分の考えを深めたり広げたりして、協働的に課題を解決していく、みんなが考える授業		
・まず、自分の考えを持つ取組により、表現することへの抵抗感は和らいできている。						
・話し合い活動で意見を交流することはできているが、内容が浅く、「深める」「広がる」ところまでには至っていない。						
・自ら考え学ぶ授業を、生徒と教師で創り上げるよう取り組んでいる。						

福山市立精華中学校

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価（１０月１日）				最終評価（２月末）			
							□指標に係る 取組状況	70% 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	70% 評価	達成 評価	総合 評価
3	「主体的な学 び」の授業づ くりを進め て、学ぶ意欲 と学力を向 上させる。	★	継 続	主体的、協働的な 学びを大切に した授業づくり で学力を向上さ せる。	・単元の中で、生徒 自らが課題発見・解 決できる場がある 授業を実践する。 ・授業の中で議論 の目的を明確にし て話し合うことで、 学びが深まる場を つくっていく。	・授業の中で「な ぜだろう」「やっ てみたい」と思っ ている生徒の割合 80% 以上 ・テストの思考力 を問う問題での無 解答率 20%未満 （前年 24%）								
			継 続	読書活動に積極 的に取り組む生 徒を育成する。	・図書委員会を中 心に、校区や校内で おすすめの本を紹 介しあう取組を充 実させる。	・読書が好きな生 徒の割合 80%以上 （前年 75%）								
3	教 職 員 の 資 質・能力の向 上を図る	★	継 続	研修によって「学 び」への理解を深 め、子どもの学び を促す実践力を 高める。	・教科の本質や子 どもの姿に着目し た授業参観シート を作成し、授業参観 に取り組む。	・研修により新し い発見があったり、 研修で得た学びを 自分の授業へ取り 入れたりした教員 100%								
			新 規	学校における働 き方改革の取組 を推進する。	・アンケート調査 等において、ICT を 活用することで、業 務の効率化を図る。	・「子どもが自ら学 ぶ」授業づくりにあ てる時間がある教 員 80%以上（前年 65%） ・時間外在校等時 間 45 時間以内の 教員 90%以上（前 年 84%）								
3	生徒の自己肯 定感を高める		継 続	生活習慣を確立 し、自分から進ん で行動する生徒 を育成する。	・計画的にボラン ティア活動を実施 し、活動後の感想 などを通信や掲示 等で発信して、評 価していく。 ・生徒主体の学校 行事、委員会活 動、係活動を充実 させる。	・ボランティアに 参加した生徒 60% 以上（前年 49%） ・やりがいや達成 感を感じている生 徒 90 %（前 年 87%）								

